

移住・交流・定住に関するアンケート調査結果

1 目的

東北地方への定住の可能性とその条件、また、東北地方への来訪(交流)の可能性とその条件を探る。

2 調査方法

インターネットによる Web 調査(株式会社インテージ)

3 調査対象

- インテージモニターを対象
- 対象地域:関東以北 1 都 13 県¹
- 対象年齢:15～74 歳(15～24 歳、25～34 歳、35～44 歳、45～54 歳、55～64 歳、65～74 歳)
- 対象地域の対象年齢別人口(平成 22 年国勢調査による)は下表のとおり
- 対象地域とサンプル数について

- ▶ 東北・北関東 10 県を対象に、移住調査で 5,000 サンプルを確保するため、17,000 サンプルの交流・定住調査及びスクリーニング調査を実施(移住意向を 30%と仮定)
- ▶ 加えて、首都圏(1 都 3 県)を対象に 3,000 サンプルの交流・定住調査を同時に実施
- ▶ すなわち、交流・定住及びスクリーニング調査は

東北・北関東10県			
	総数	男	女
15～24歳	634	325	309
25～34歳	769	395	375
35～44歳	887	451	436
45～54歳	856	429	427
55～64歳	1,050	524	526
65～74歳	803	378	425
合計	5,000	2,502	2,498

	対象地域	
	関東以北 1 都 13 県	
	東北・北関東 10 県	首都圏 (1 都 3 県)
交流調査	17,000	3,000
定住調査		
スクリーニング調査		
移住調査	5,000	×

¹ 東北 7 県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県)、関東 1 都 3 県(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)及び北関東 3 県(茨城県、栃木県、群馬県)

4 調査期間

○交流・定住及びスクリーニング調査 : 2015年10月16日～10月19日

○移住調査 : 2015年10月21日～10月23日

5 有効回答者数

○交流・定住及びスクリーニング調査 : 20,911(配布数143,387、回収率14.6%)

○移住調査 : 5,495(配布数7,468、回収率73.6%)

6 回答者の属性

○交流・定住及びスクリーニング調査

【年齢性別】

	度数	%
TOTAL	20911	100.0
男性15-24歳	763	3.6
男性25-34歳	1981	9.5
男性35-44歳	2012	9.6
男性45-54歳	1852	8.9
男性55-64歳	2347	11.2
男性65-74歳	1983	9.5
女性15-24歳	1483	7.1
女性25-34歳	1639	7.8
女性35-44歳	1873	9.0
女性45-54歳	1919	9.2
女性55-64歳	2249	10.8
女性65-74歳	810	3.9

【地域別】

	度数	%
TOTAL	20911	100.0
青森県	1250	6.0
岩手県	1113	5.3
宮城県	2485	11.9
秋田県	995	4.8
山形県	983	4.7
福島県	1717	8.2
茨城県	3064	14.7
栃木県	1882	9.0
群馬県	1922	9.2
埼玉県	610	2.9
千葉県	530	2.5
東京都	1186	5.7
神奈川県	808	3.9
新潟県	2366	11.3

○移住調査

【年齢性別】

	度数	%
TOTAL	5495	100.0
男性15-24歳	196	3.6
男性25-34歳	651	11.8
男性35-44歳	588	10.7
男性45-54歳	565	10.3
男性55-64歳	594	10.8
男性65-74歳	368	6.7
女性15-24歳	495	9.0
女性25-34歳	474	8.6
女性35-44歳	498	9.1
女性45-54歳	492	9.0
女性55-64歳	489	8.9
女性65-74歳	85	1.5

【地域別】

	度数	%
TOTAL	5495	100.0
青森県	391	7.1
岩手県	335	6.1
宮城県	791	14.4
秋田県	289	5.3
山形県	299	5.4
福島県	601	10.9
茨城県	988	18.0
栃木県	568	10.3
群馬県	559	10.2
新潟県	674	12.3

7 調査結果

7-1 交流・定住調査＋スクリーニング調査

1) 交流調査

設問① あなたが国内で観光・レジャーを行う場合、何を重視しますか。各項目で当てはまるもの 1 つにチェックしてください。

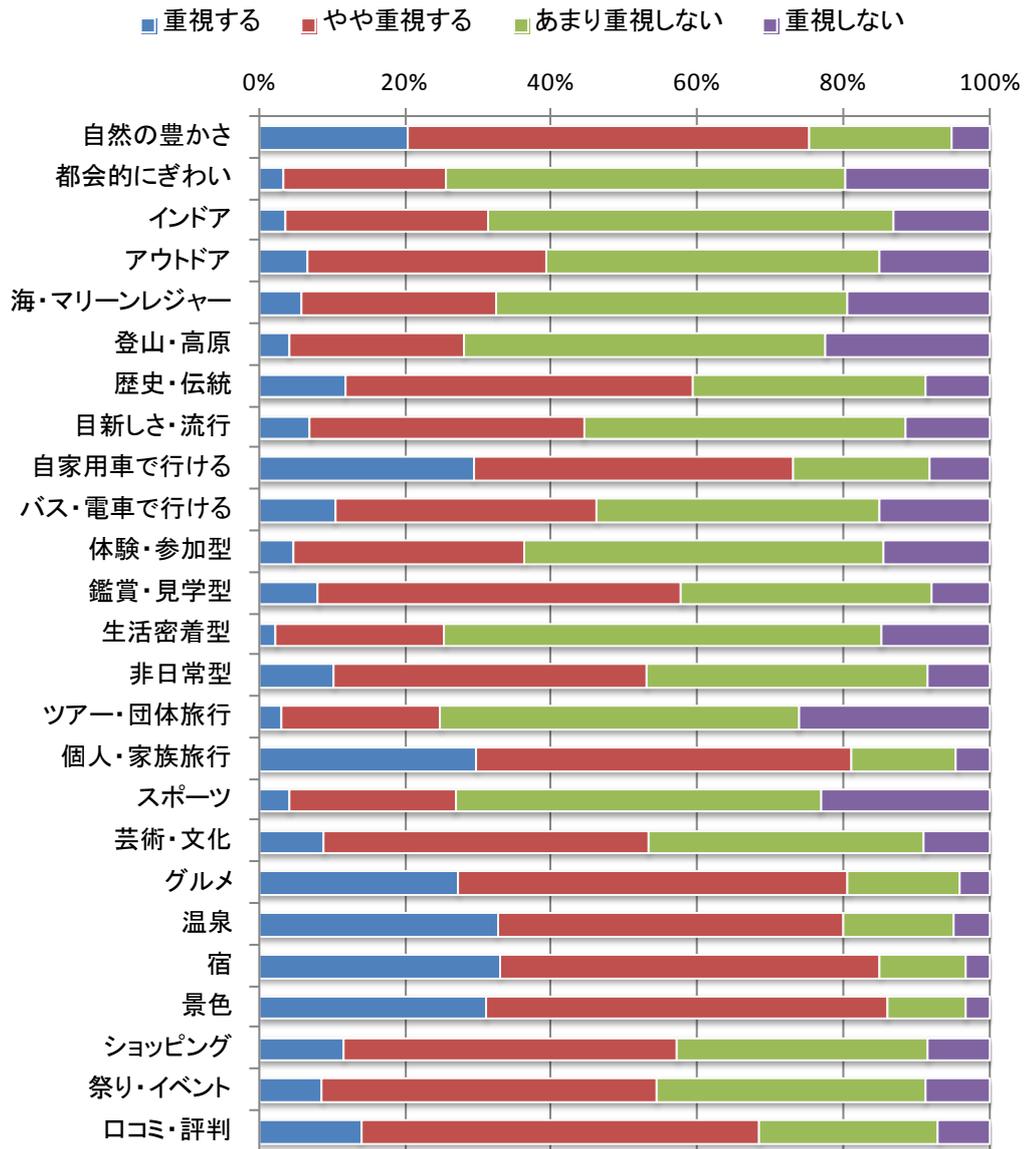
- 国内の観光レジャーで重視するものは、「自然の豊かさ」が突出し、「歴史・伝統」が続く。
- 交通手段として、「自家用車で行ける」ことが重視され、「個人・家族旅行」が好まれる。
- 「グルメ」、「温泉」、「宿」、「景色」が重点ポイントとなっている。

【都県別傾向】 27～29 ページ参照

- 「自然の豊かさ」や「歴史・伝統」、あるいは「海・マリーンレジャー」、「登山・高原」、「非日常型」、「芸術・文化」、「景色」は首都圏や北関東で重視される傾向が強い。逆に、「都会的にぎわい」、「ショッピング」（宮城県を除く）、「祭り・イベント」は東北で重視される傾向が強い。
- 「自家用車で行ける」ことは首都圏では重視の度合いが低く、「バス・電車で行ける」ことを重視する傾向が強くなる。

【年齢別傾向】 29～31 ページ参照

- 重視の度合いが強い「自然の豊かさ」、「歴史・伝統」については、年齢が上がるほどその傾向が強くなる。この他、「登山・高原」、「鑑賞・見学型」、「芸術・文化」、「温泉」、「景色」も同様の傾向を持つ。
- 15-24 歳、25-34 歳といった若い世代が重視するものは、「都会的にぎわい」、「海・マリーンレジャー」、「目新しさ・流行」、「体験・参加型」、「ショッピング」、「祭り・イベント」などである。



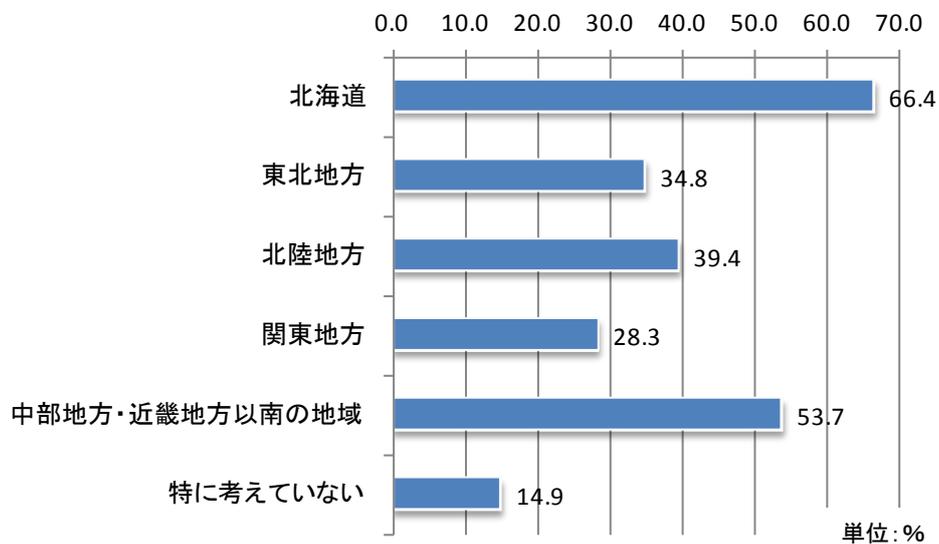
設問② それでは、国内の観光・レジャーで行ってみたい具体的な地域はありますか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も行ってみたい地域を1つ選んでください。

- ▶ 最も行ってみたい地域としての「東北地方」は評価が低いものの、約 1/3 の人が国内の観光・レジャーで行ってみたい地域として「東北地方」に興味を持っている。

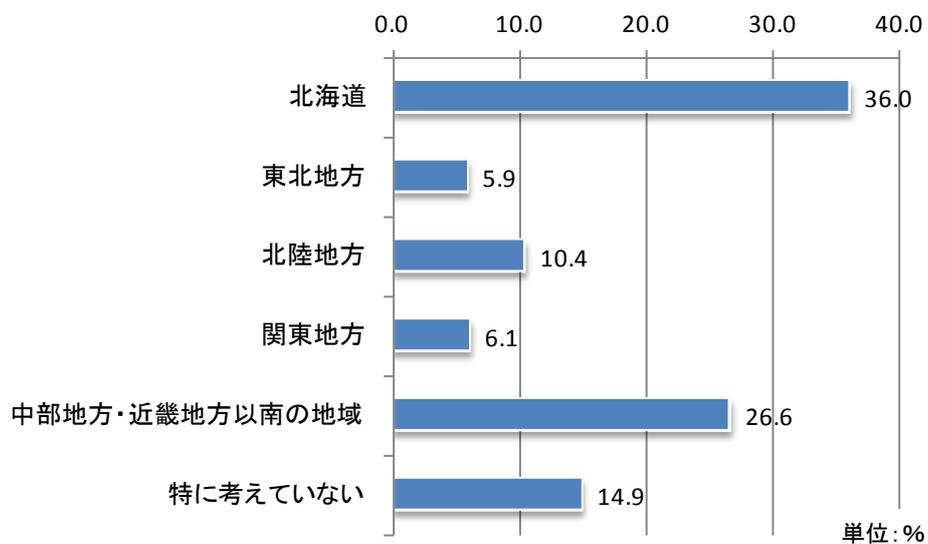
【都県別・年齢別傾向】 31 ページ参照

- ▶ 「東北地方」に行ってみたいという回答は首都圏・北関東で強い。
- ▶ 「東北地方」に最も行ってみたいという回答をみると、年齢が高くなるほど、特に 55-64 歳、65-74 歳で多い。

【行ってみたい地域】



【最も行ってみたい地域】

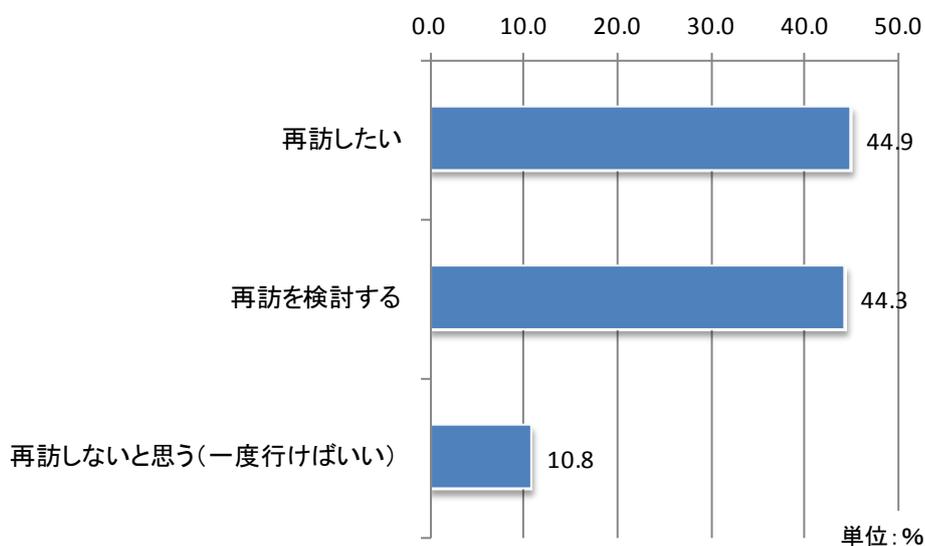


設問③ その観光・レジャーの目的地が気に入った場合、そこを再訪したいと思いますか。当てはまるもの 1 つにチェックしてください。

- ▶ 観光・レジャーの目的地が気に入った場合、「再訪したい」、「再訪を検討する」が各々約 45%を占め、「再訪しないと思う」は約 10%に過ぎない。まずは来てもらい、その地の魅力を感じてもらうことが重要である。

【都県別・年齢別傾向】 34 ページ参照

- ▶ 都県別には特徴的な傾向はみられない。年齢別にみると、「再訪したい」、「再訪を検討する」という回答率は 25-34 歳、35-44 歳など、中間層で高くなっている。



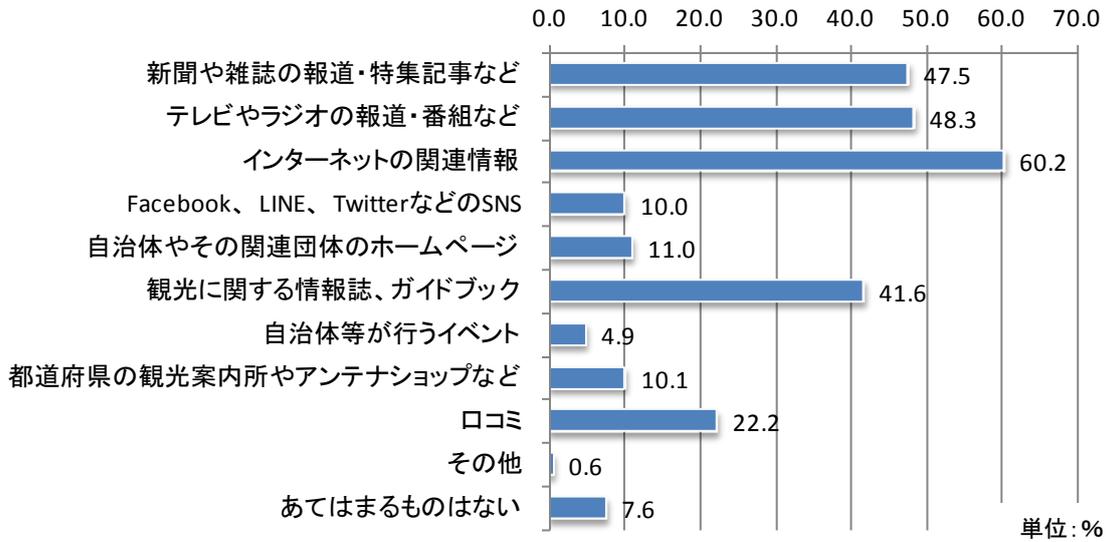
設問④ 観光・レジャーの情報源は何ですか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も有効な情報源を1つ選んでください。

- ▶ 最も有効な情報源は「インターネットの関連情報」で、その他、「テレビやラジオの報道・番組など」、「新聞や雑誌の報道・特集記事など」、「観光に関する情報誌、ガイドブック」が観光・レジャーの主な情報源となっている。

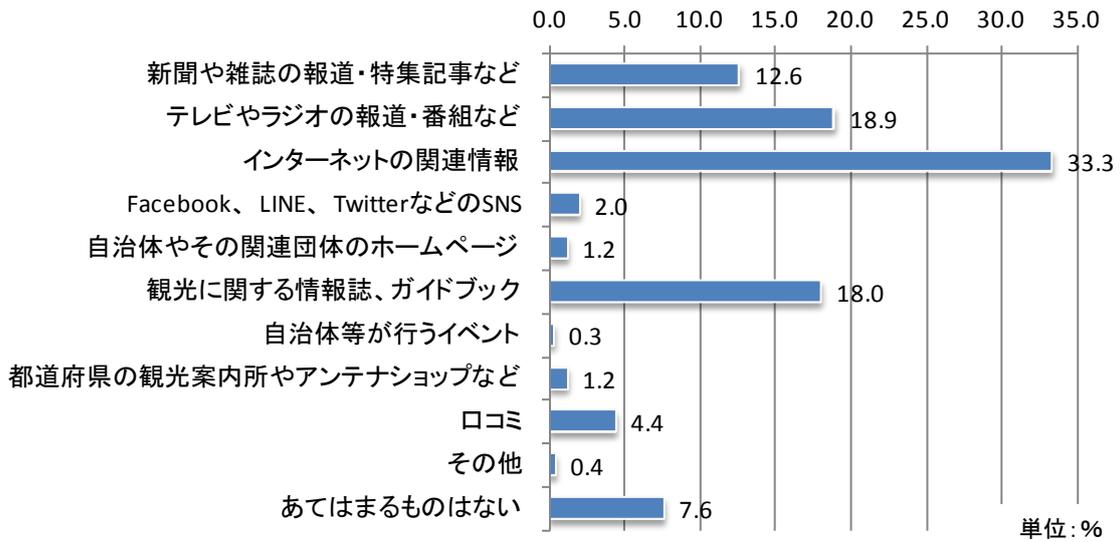
【都県別・年齢別傾向】 35～37 ページ参照

- ▶ 都県別には、「インターネットの関連情報」の回答率が東京都でやや高いほかは、特徴的な傾向はみられない。
- ▶ 年齢別にみると、「インターネットの関連情報」、「Facebook、LINE、TwitterなどのSNS」は若い世代で回答率が高く、特に「Facebook、LINE、TwitterなどのSNS」は15-24歳の回答率が突出して高い。
- ▶ 一方、「テレビやラジオの報道・番組など」、「新聞や雑誌の報道・特集記事など」、「観光に関する情報誌、ガイドブック」は年齢が高くなるほど回答率が高くなる。
- ▶ 年齢別の傾向は、最も有効な情報源を聞いた設問でも同様となっている。

【有効な情報源】



【最も有効な情報源】



2) 定住調査

設問⑤ あなたは、現在お住まいの地域の住みやすさについてどう感じていますか。当てはまるものを1つお選びください。

設問⑥ 設問⑤でそう感じられた理由についてお答えください。当てはまるものを3つまで選んでチェックしてください。

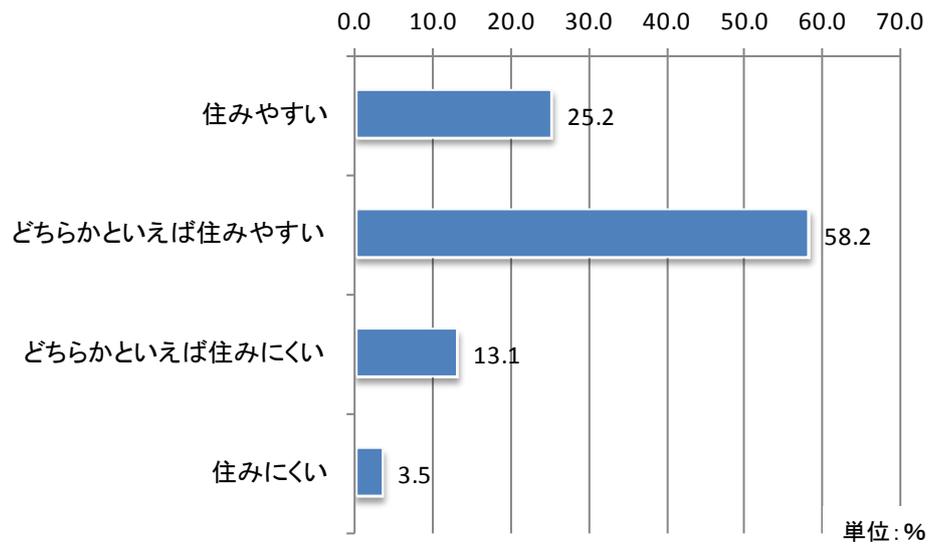
- ▶ 「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が各々25.2%、58.2%となっており、8割超の方が現在の居住地を住みやすいと感じている。
- ▶ 住みやすい理由は、「買い物などの日常生活が便利」がトップで、「緑や水辺などの自然が多い」、「まちが安全である」が続く。
- ▶ 住みにくい理由は、「バスや電車など、公共交通が不便」がトップで、「買い物などの日常生活が不便」、「通勤・通学が不便」が続くなど、利便性の面での不満が圧倒的に多い。

【都県別傾向】 38～44 ページ参照

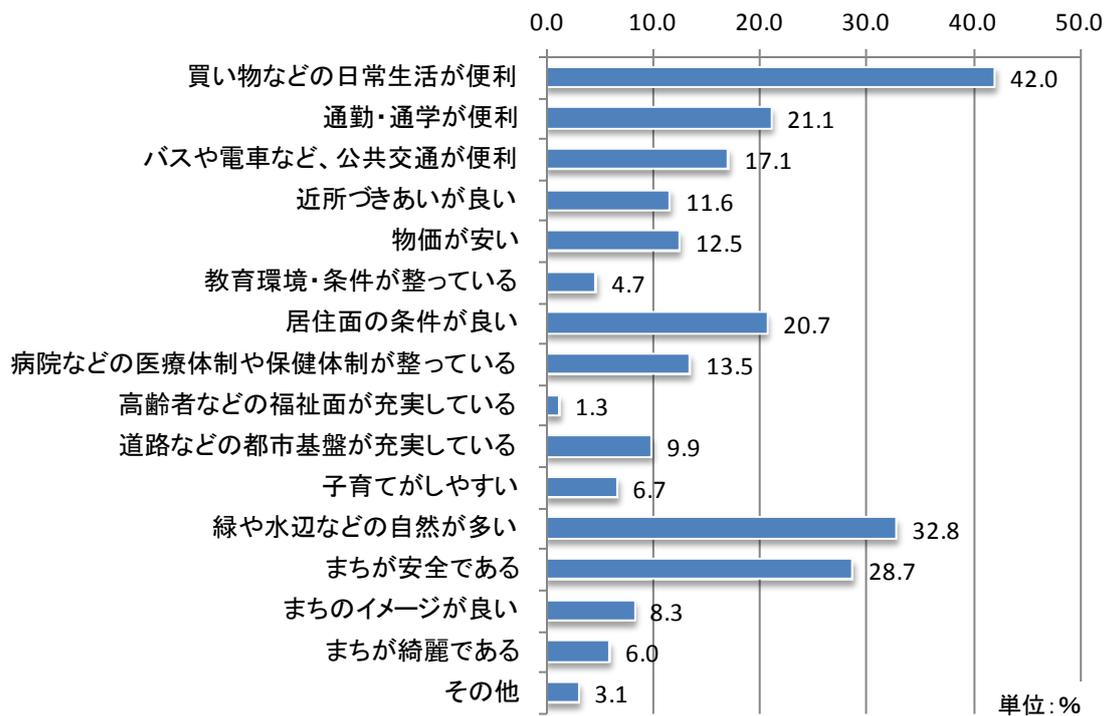
- ▶ 「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の回答率は、首都圏、北関東で高く、東北では、宮城県の値が他県に比較して極めて高くなっている(38 ページ)。
- ▶ こうした都県が住みやすい理由としては、「買い物などの日常生活が便利」、「通勤・通学が便利」、「バスや電車など、公共交通が便利」といった利便性を評価した回答や、「道路などの都市基盤が充実している」といった面を評価する回答が多い。一方、東北を評価する回答としては、「緑や水辺などの自然が多い」、「まちが安全である」が目立つ(39～40 ページ)。
- ▶ 東北が首都圏と比較して住みにくい理由としては、「バスや電車など、公共交通が不便」(宮城県を除く)、「買い物などの日常生活が不便」のほか、青森県、岩手県では「病院などの医療体制や保健体制が整っていない」という回答も多い(42～43 ページ)。

【年齢別傾向】 38～44 ページ参照

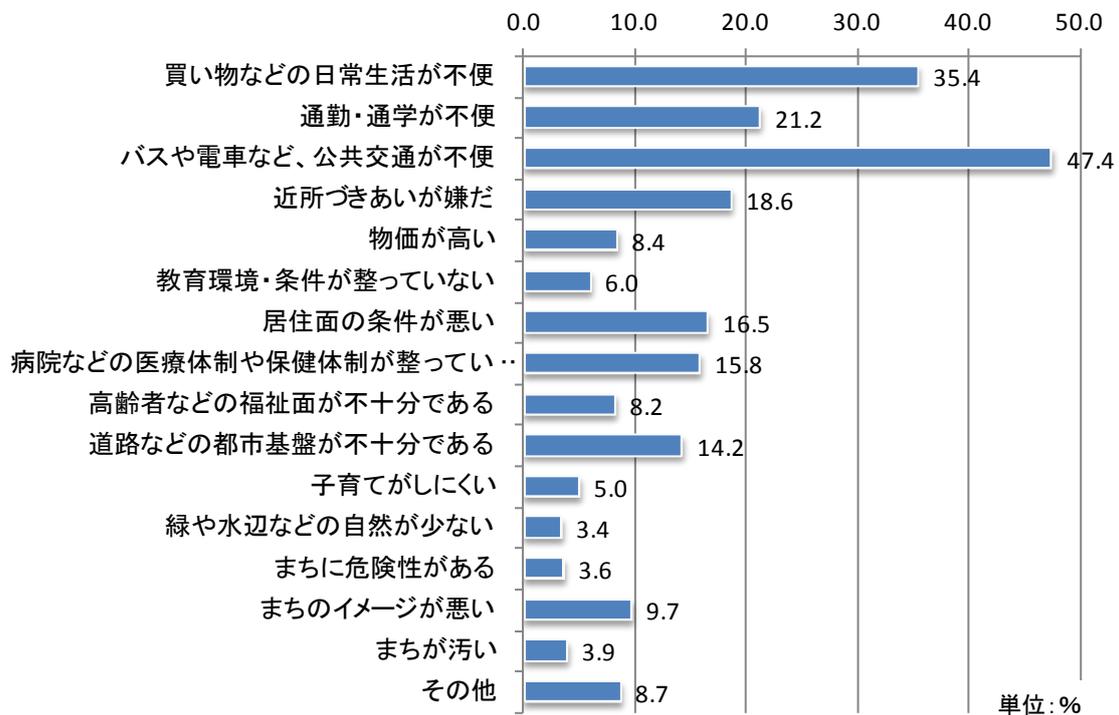
- ▶ 「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の回答率を年齢別にみると、年齢が高くなるほど回答率が高くなる傾向にある(38 ページ)。
- ▶ 若い世代は「通勤・通学が便利」を住みやすい理由として挙げており、高齢層は「居住面の条件が良い」、「病院などの医療体制や保健体制が整っている」、「緑や水辺などの自然が多い」、「まちが安全である」を住みやすい理由として挙げている(41 ページ)。
- ▶ 逆に、住みにくい理由として、若い世代は「通勤・通学が不便」や回答率は低いものの「子育てがしにくい」を挙げる傾向にあり、高齢層は「病院などの医療体制や保健体制が整っていない」、「高齢者などの福祉面が不十分である」を挙げる傾向にある(44 ページ)。



【住みやすい(n= 17,456)理由】



【住みにくい(n= 3,455)理由】

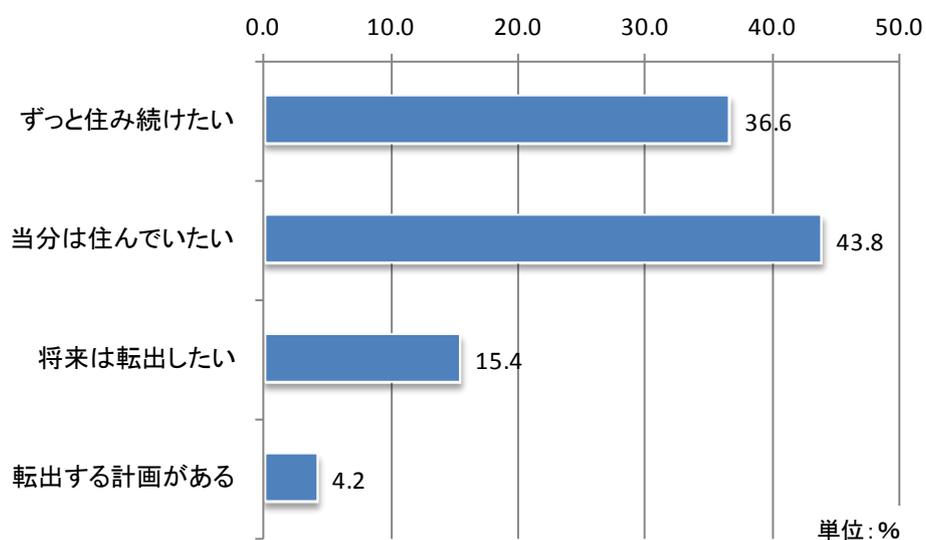


設問⑦ あなたは将来も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。当てはまるもの 1 つにチェックしてください。

- 「ずっと住み続けたい」は 36.6%と約 1/3 を占める。
- 「当分は住んでいたい」は 43.8%、「将来は転出したい」は 15.4%で、広義に捉えると、潜在的な移住希望者は約 6 割にのぼる。
- 「転出する計画がある」は 4.2%である。

【都県別・年齢別傾向】 45 ページ参照

- 年齢が高くなるほど、住み続けたいという意向が強くなるが、都県別には特徴的な傾向はみられない。



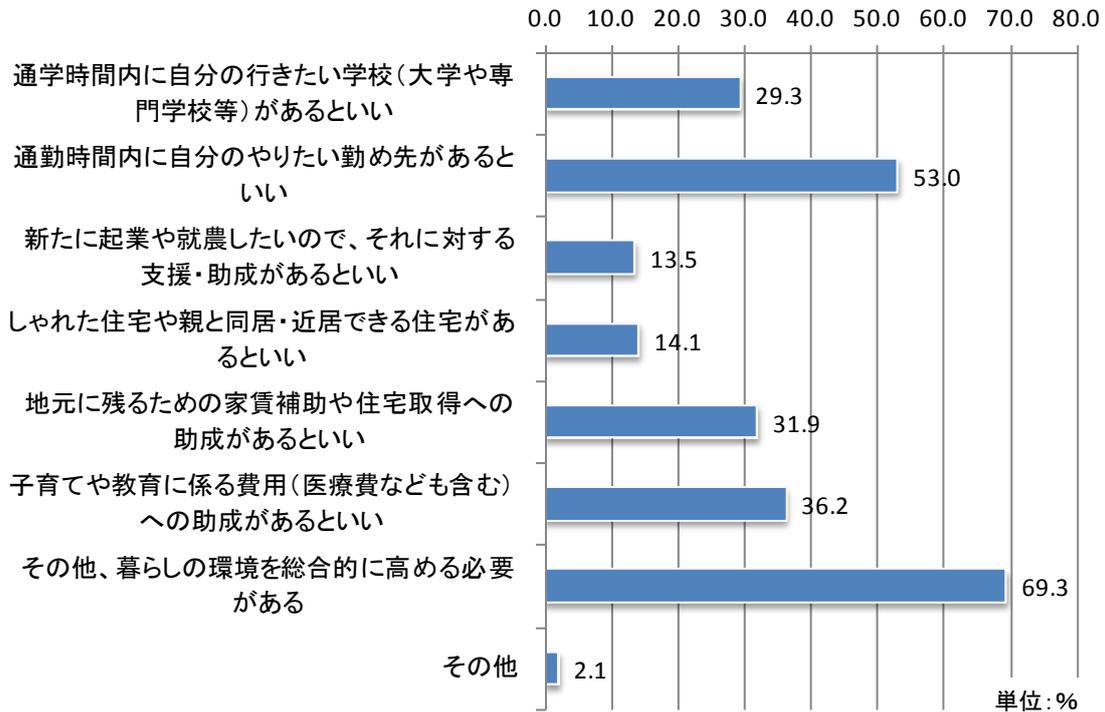
設問⑧ 就学や就職、結婚などを機に、生まれ育った地域から転居する若者が多く見られますが、地元に残るためにあなたが必要だと思う条件は何ですか？当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も必要だと思う条件を1つ選んでください。

- ▶ 「暮らしの環境(買い物・交通等の利便性、医療・福祉環境、安全性など)を総合的に高める必要がある」が最も必要な条件とされている。
- ▶ その他、「通勤時間内に自分のやりたい勤め先があるといい」、「子育てや教育に係る費用(医療費なども含む)への助成があるといい」、「地元に残るための家賃補助や住宅取得への助成があるといい」、「通学時間内に自分の行きたい学校(大学や専門学校等)があるといい」が必要な条件として多く選択されている。

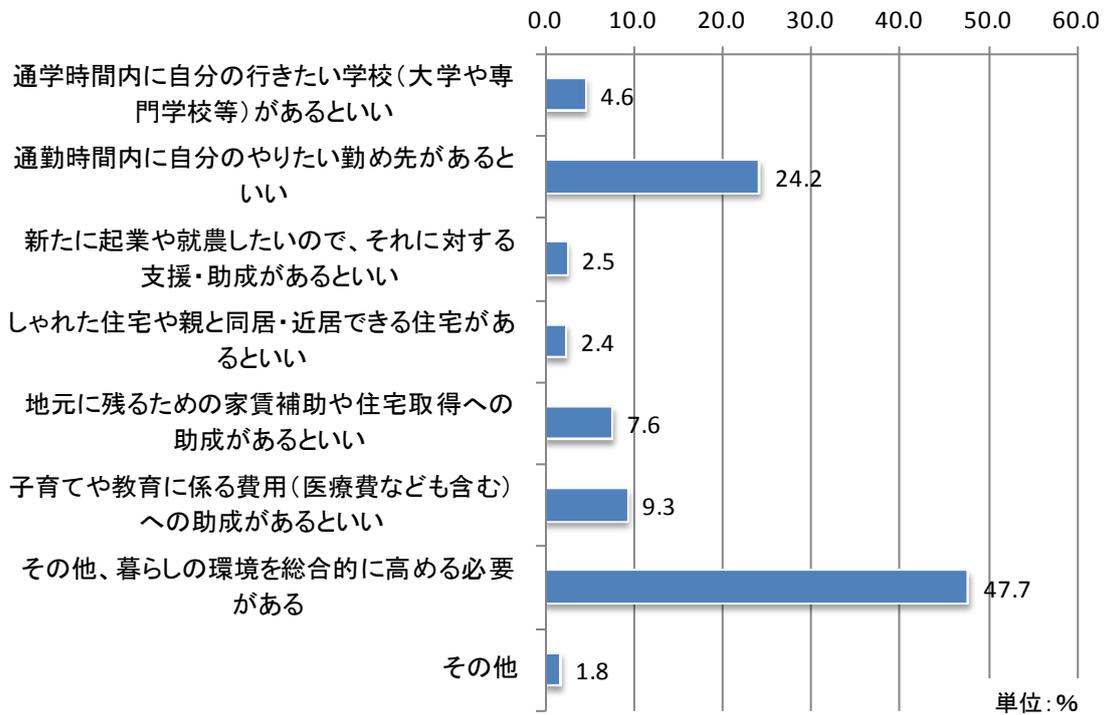
【都県別・年齢別傾向】 46～48 ページ参照

- ▶ 宮城県を除く東北で、「新たに起業や就農したいので、それに対する支援・助成があるといい」、「地元に残るための家賃補助や住宅取得への助成があるといい」、「子育てや教育に係る費用への助成があるといい」の回答率がやや高く、主に経済的支援を求める傾向が強いと考えられる。
- ▶ 若い世代では「通勤時間内に自分のやりたい勤め先があるといい」、「子育てや教育に係る費用(医療費なども含む)への助成があるといい」、「地元に残るための家賃補助や住宅取得への助成があるといい」、「通学時間内に自分の行きたい学校(大学や専門学校等)があるといい」、「しゃれた住宅や親と同居・近居できる住宅があるといい」など、ほぼすべての項目で高齢層に比較して回答率が高くなっている。
- ▶ 最も回答率が高かった「暮らしの環境(買い物・交通等の利便性、医療・福祉環境、安全性など)を総合的に高める必要がある」は年齢が高くなるほど回答率が高くなる。
- ▶ 年齢別の傾向は、地元に残るために最も必要な条件を聞いた設問でも同様となっている。

【地元に残るために必要な条件】



【地元に残るために最も必要な条件】

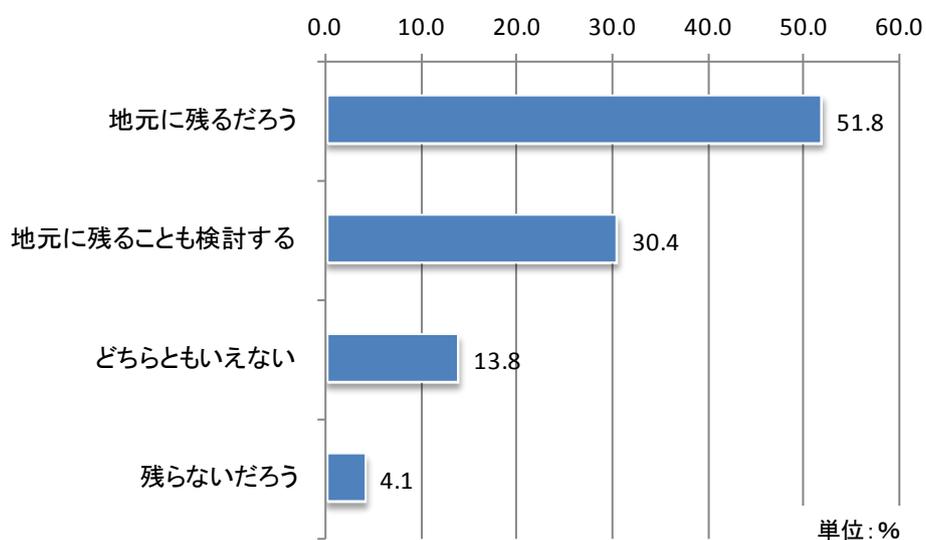


設問⑨ そのような条件が整ったとしたら、あなたは地元に残りますか。就学や就職、結婚などの時期を過ぎた方もその当時のことを思い出して、当てはまるもの1つにチェックしてください。

- 「地元に残るだろう」が51.8%と過半を超える。
- 「地元に残ることも検討する」が30.4%で続き、「残らないだろう」は4.1%に過ぎない。

【都県別・年齢別傾向】 49 ページ参照

- 「地元に残るだろう」の回答率は首都圏で低く、「地元に残ることも検討する」、「どちらともいえない」の回答率が高くなっている。
- 「地元に残るだろう」の回答率は年齢が低くなるほど低下し、「どちらともいえない」、「残らないだろう」の回答率が高くなる。



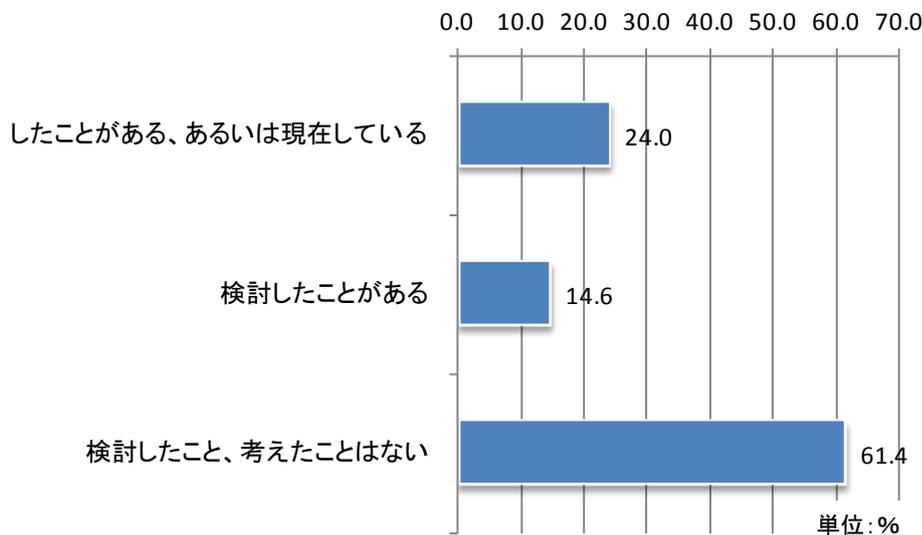
3) スクリーニング調査(移住意向)

設問⑩ Uターン、Jターン、Iターン、2地域居住(以下「移住等」という)をしたことはありますか。当てはまるもの1つにチェックしてください。

- 移住等(Uターン、Jターン、Iターン、2地域居住)を「したことがある、あるいは現在している」が24.0%、「検討したことがある」は14.6%を占める。

【都県別・年齢別傾向】50ページ参照

- 「検討したこと、考えたことはない」の回答率は首都圏で高く、東北、北関東では、「したことがある、あるいは現在している」の回答率が高い。
- 年齢別にみると、15-24歳で「したことがある、あるいは現在している」の回答率が低い。



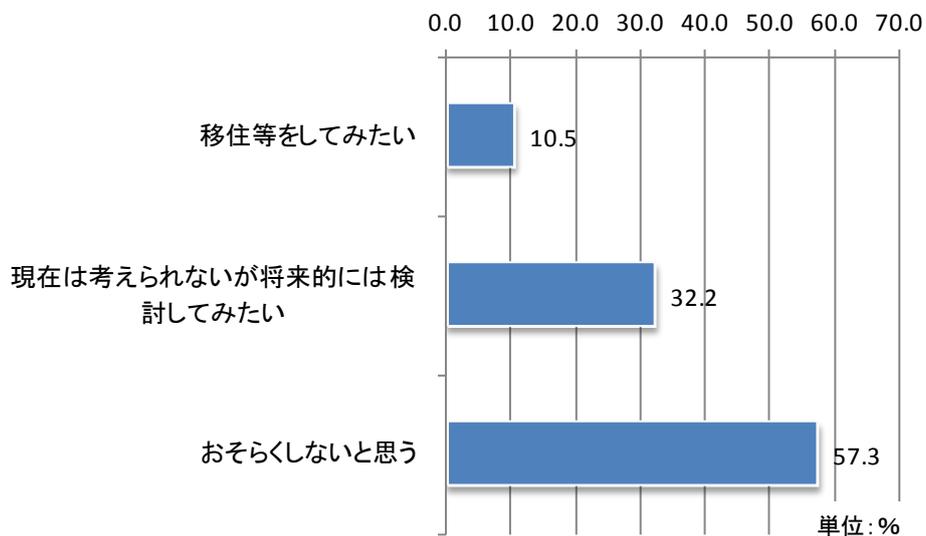
Uターン : 生まれ育った地域から進学や就職などを機に都会へ移り住んだ後、再び生まれ育った地域に移住すること
Jターン : 生まれ育った地域から進学や就職などを機に都会へ移り住んだ後、生まれ育った地域に近い地方の都市に移住すること
Iターン : 生まれ育った地域から進学や就職などを機にその地域にはない要素を求めて、または自己実現のために、別の地域に移住することで、特に都会で生まれ育った人が地方での暮らしに魅力を感じ、地方に移住すること
2地域居住 : 2つの地域に生活拠点をもち、主に都会と農山漁村とを行き来しながら暮らすこと(週末を田舎で過ごす「週末ステイ」や季節に応じて拠点をかえる「シーズンステイ」など)
※ここでいう「移住等」とは、国内に限ります。

設問⑪ 今後、移住等をしてみたいと思いますか？ 当てはまるもの1つにチェックしてください。

- 「移住等をしてみたい」は 10.5%、「現在は考えられないが将来的には検討してみたい」が 32.2%を占め、潜在的な移住希望者は 4 割を超える。
- ちなみに、「東京在住者の今後の移住に関する意向調査 平成 26 年 9 月 17 日 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局(以下、「東京在住者調査」という)」における「東京都以外への移住意向(東京都から移住する予定又は移住を検討したいと思っている人の割合)」は 40.7%となっており、本調査の 42.7%と概ね同水準である。

【都県別・年齢別傾向】 51 ページ参照

- 首都圏で、「現在は考えられないが将来的には検討してみたい」の回答率がやや高くなっている。
- 年齢が低くなるほど、「移住等をしてみたい」、「現在は考えられないが将来的には検討してみたい」の回答率が高くなる。



7-2 移住調査

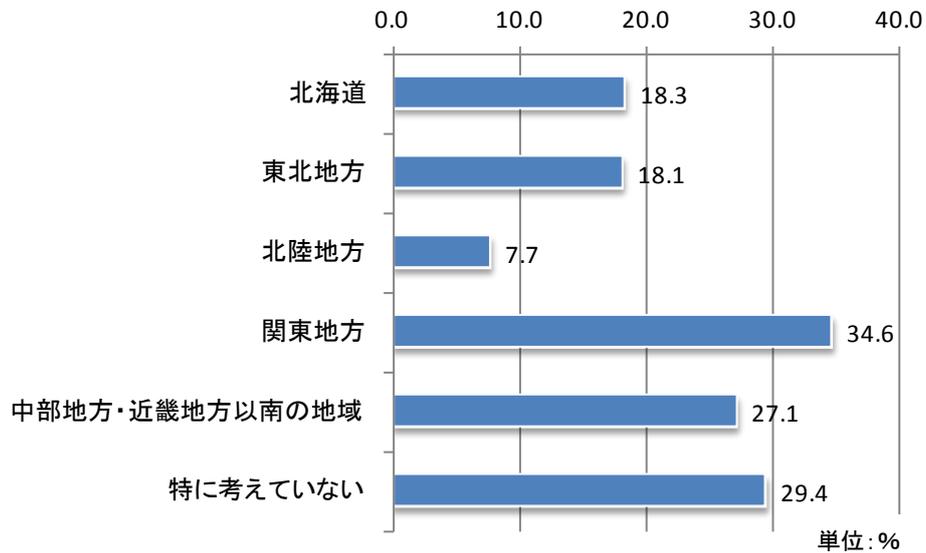
設問⑫ 設問⑪で移住等を「してみたい」「将来的には検討してみたい」とお答えの方にお聞きします。国内で移住等をしてみたい具体的な地域はありますか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最もしてみたい地域を1つ選んでください。

- ▶ 移住等を最もしてみたい地域は「関東地方」だが、「東北地方」も約2割の人が移住先として興味を持っている。

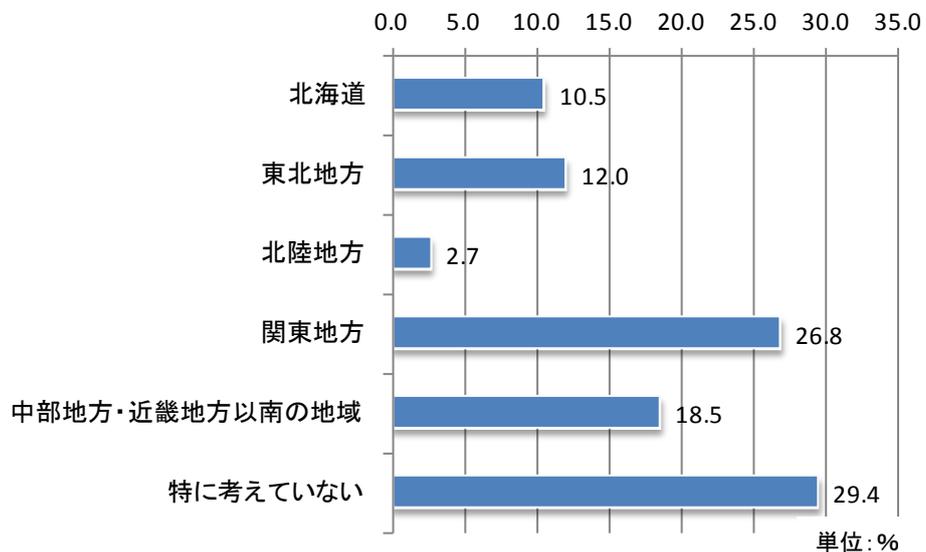
【県別・年齢別傾向】 52 ページ参照

- ▶ 「東北地方に移住等をしてみたい」という回答は東北で圧倒的に多い。
- ▶ 年齢別にみると、若い世代で東北への移住意向が高い。

【移住等をしてみたい地域】



【移住等を最もしてみたい地域】



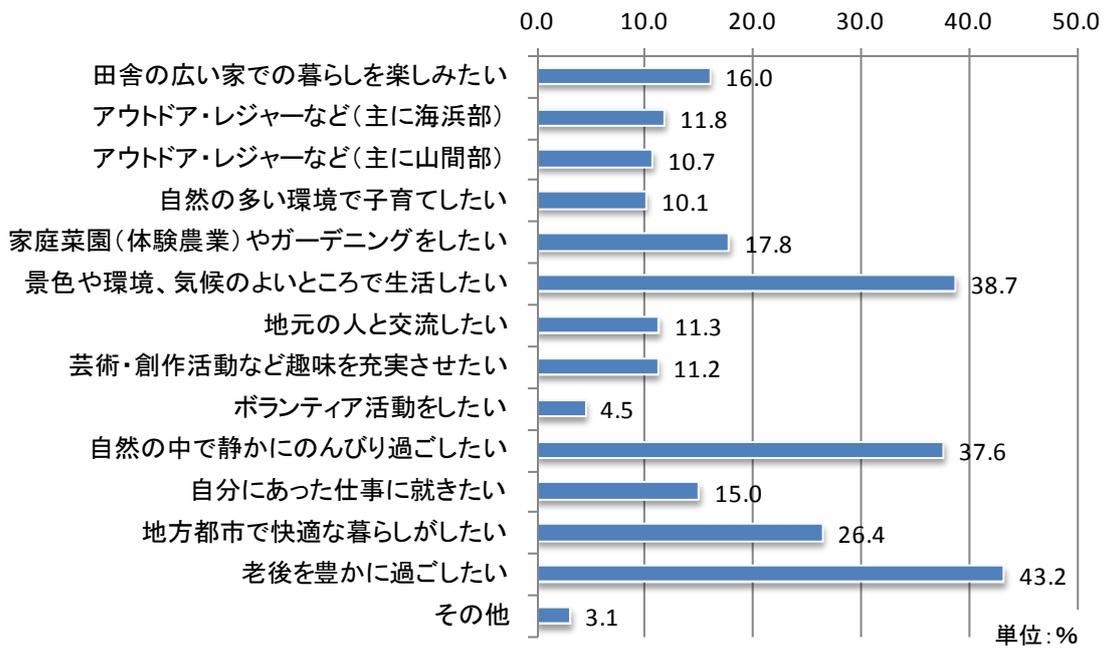
設問⑬ 移住等をするとしたら何をしてみたいですか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最もしてみたいことを1つ選んでください。

- ▶ してみたいことは、「老後を豊かに過ごしたい」、「景色や環境、気候のよいところで生活したい」、「自然の中で静かにのんびり過ごしたい」、「地方都市で快適な暮らしがしたい」に回答が集中し、各々40%前後を占めている。

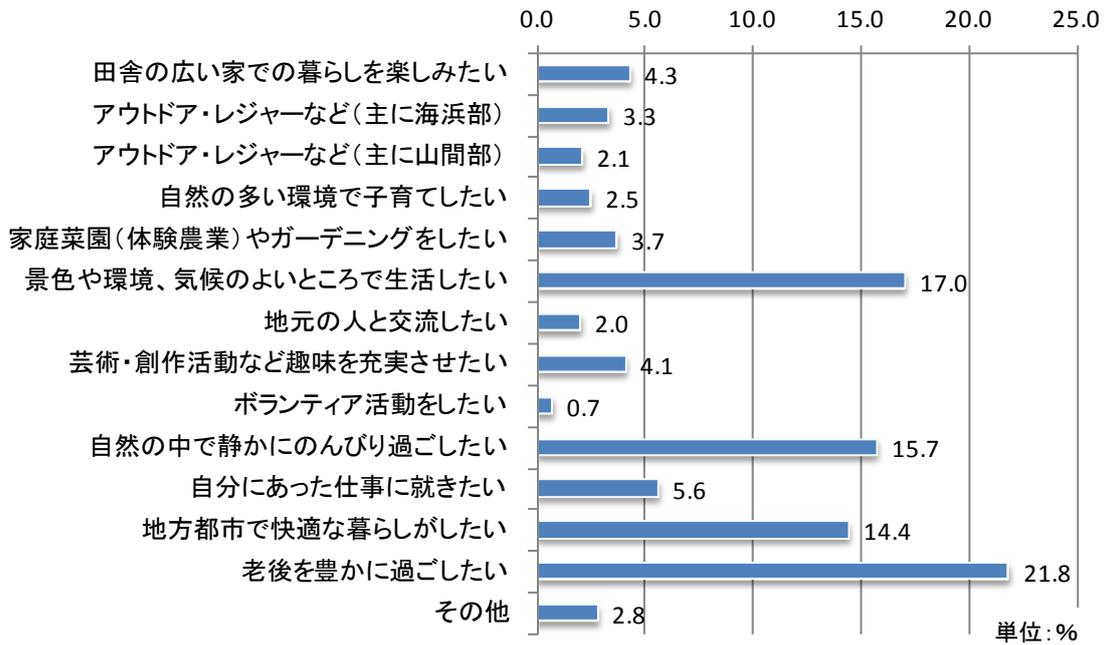
【県別・年齢別傾向】 54～56 ページ参照

- ▶ 「老後を豊かに過ごしたい」、「自然の中で静かにのんびり過ごしたい」や「田舎の広い家での暮らしを楽しみたい」は北関東で選択率が高く、「地方都市で快適な暮らしがしたい」は東北で選択率が高い。
- ▶ ちなみに、「東京在住者調査」では、移住したい理由として36.9%の人が「スローライフを実現したいから」を選択している(複数回答)。
- ▶ 若い世代が求めているのは、「地方都市で快適な暮らしがしたい」、「自分にあった仕事に就きたい」、「田舎の広い家での暮らしを楽しみたい」、「自然の多い環境で子育てしたい」などで、一方、高齢層が求めているのは、「老後を豊かに過ごしたい」、「家庭菜園(体験農業)やガーデニングをしたい」などである。

【移住等でしてみたいこと】



【移住等で最もしてみたいこと】



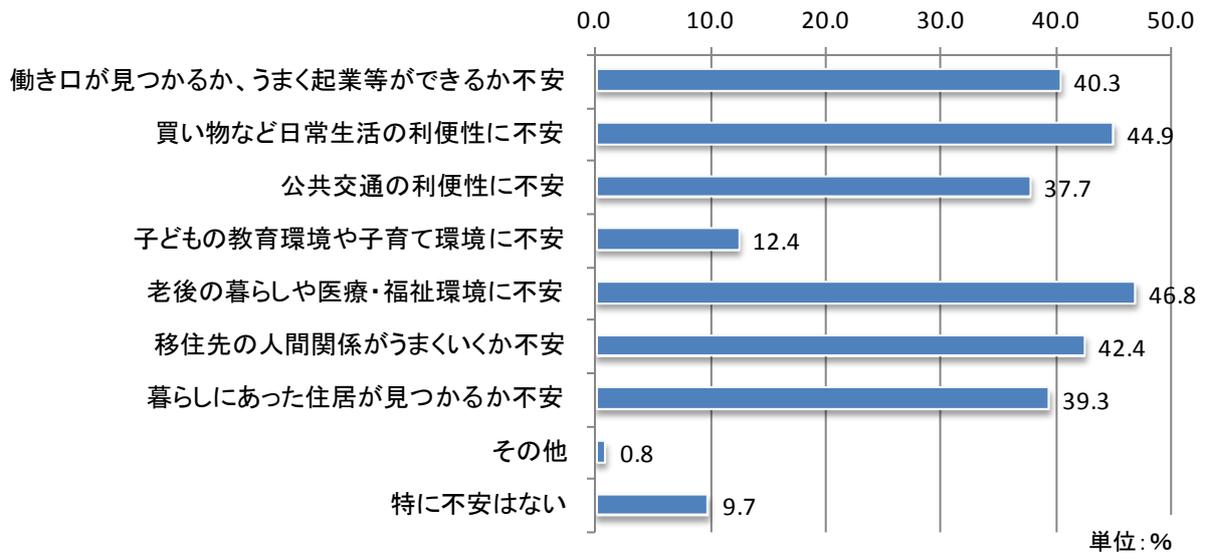
設問⑭ 移住等を検討する場合に不安なことは何ですか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も不安なものを1つ選んでください。

- 移住等を検討する場合に最も不安なことは、「老後の暮らしや医療・福祉環境に不安」、「働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安」となっているが、利便性、人間関係、住宅など、不安材料は幅広い分野に広がっている。

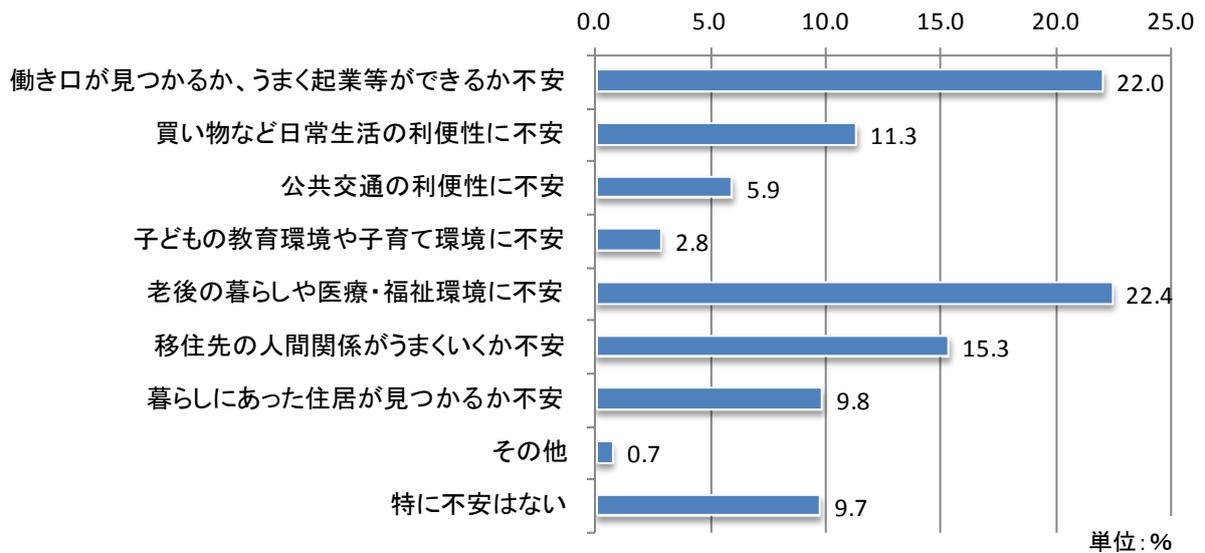
【県別・年齢別傾向】 57～59 ページ参照

- 青森県、岩手県、山形県などでは、「働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安」という回答が多く、宮城県や北関東では、「買い物など日常生活の利便性に不安」、「公共交通の利便性に不安」、「老後の暮らしや医療・福祉環境に不安」など、生活の利便性に関わる不安(現在より悪くなる不安?)が多い。
- ちなみに、「東京在住者調査」では、東京都以外への移住を検討する上での不安点・懸念点として、「働き口が見つからない」、「日常生活の利便性」、「公共交通の利便性」がトップスリーで、各々41.6%、36.7%、35.9%が選択されている(複数回答)。その他、「移住先の人間関係」30.3%、「住居環境」28.3%、「医療・福祉」27.0%と続く。
- 若い世代は、「働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安」、「公共交通の利便性に不安」、「子どもの教育環境や子育て環境に不安」などに不安を感じており、高齢層での不安は、「老後の暮らしや医療・福祉環境に不安」に集中している。

【移住等で不安なこと】



【移住等で最も不安なこと】



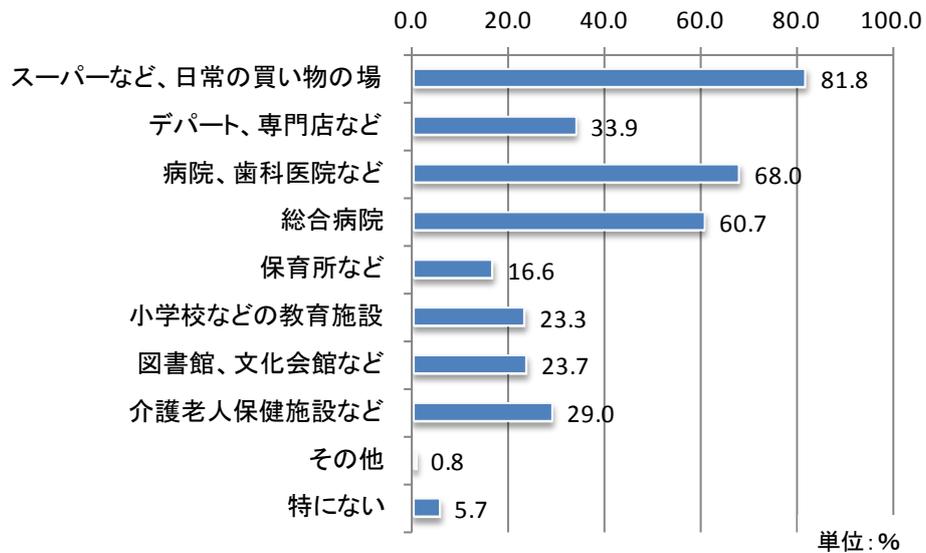
設問⑮ 移住等を検討する地域に必要な施設・サービスは何ですか。必要だと思うものすべてにチェックしてください。また、必要な施設・サービスについて、車で 15 分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しいものをすべてチェックしてください。

- ▶ 移住等を検討する地域に必要な施設・サービスは、「スーパーなど、日常の買い物の場」、「病院、歯科医院など」、「総合病院」となっている。
- ▶ 車で 15 分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しい施設・サービスとしては、「スーパーなど、日常の買い物の場」が望まれている。

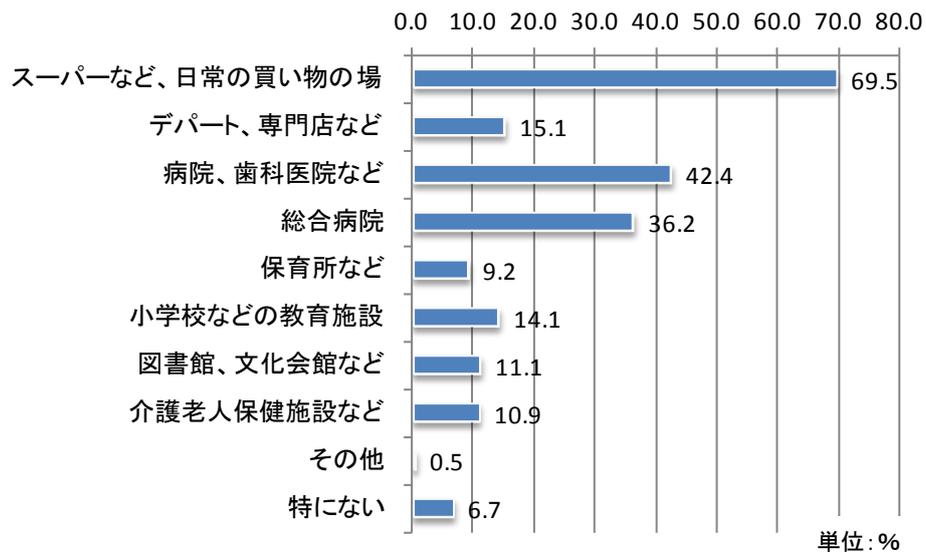
【県別・年齢別傾向】 60～63 ページ参照

- ▶ 県別には特徴的な傾向はみられない。
- ▶ 若い世代が、「デパート、専門店など」や「スーパーなど、日常の買い物の場」、また、「保育所など」や「小学校などの教育施設」を必要とし、高齢層は、「介護老人保健施設など」を必要とする傾向にある。15-24 歳は、「図書館、文化会館など」を必要とする傾向が強い。
- ▶ 車で 15 分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しい施設・サービスをみても傾向は概ね同様であるが、「総合病院」については若い世代で必要性がやや低くなっている。

【移住等を検討する地域に必要な施設・サービス】



【車で15分程度の距離(日常の生活圏内)に欲しい施設・サービス】



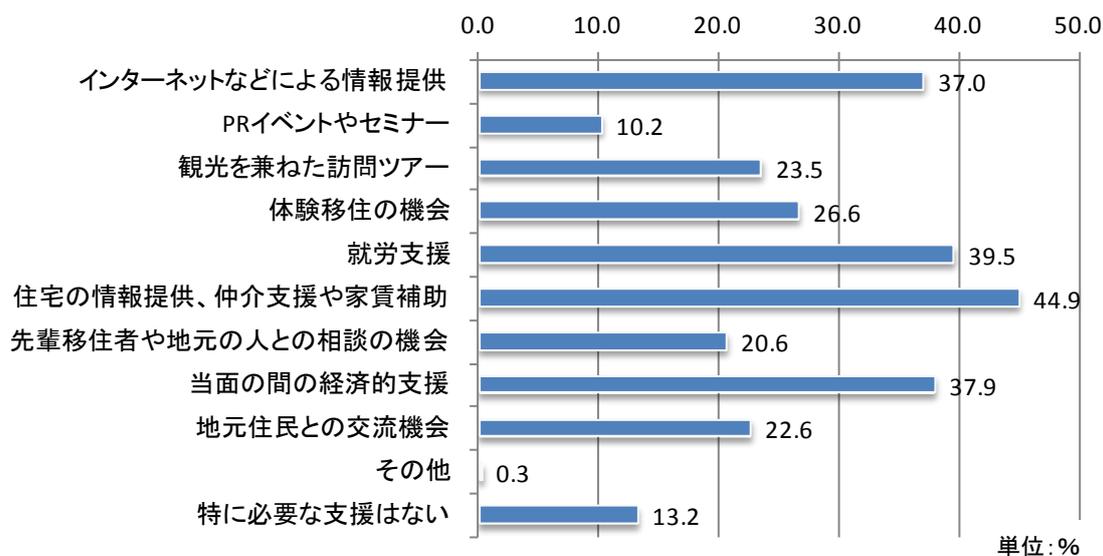
設問⑩ 移住等を検討する場合、どのような支援策が必要だと思えますか。当てはまるものすべてにチェックし、その中で最も必要だと思う支援策を1つ選んでください。

- 移住等を検討する場合に必要な支援策としては、「就労支援」、「当面の間の経済的支援」、「住宅の情報提供、仲介支援や家賃補助」といった経済的な支援が求められている。
- 情報提供に関しては、「インターネットなどによる情報提供」を求める声が多い。

【県別・年齢別傾向】 64～66 ページ参照

- 県別には特徴的な傾向はみられない。
- 若い世代で、「インターネットなどによる情報提供」や「就労支援」を求める声が多く、「地元住民との交流機会」を求める声は高齢層が多い。最も必要な支援策としては、高齢層において「住宅の情報提供、仲介支援や家賃補助」の要求が高まる。

【移住等を検討する場合に必要な支援策】



【移住等を検討する場合に最も必要な支援策】

